

令和元年度 学力向上プラン

学校名 中央区立中央小学校

学校の教育目標

・自分も人も大切に子ども	…○ハートだ！	中央っ子！	(徳)
・よく考え行動する子ども	…○チャレンジだ！	中央っ子！	(知)
・心も身体も健康な子ども	…○ファイトだ！	中央っ子！	(体)

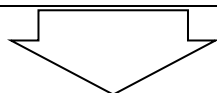
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

○子どもの立場に立った分かる授業 <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校のよさを生かし、子ども一人一人の特性を捉え、きめ細かい指導の工夫を行う。
○基礎・基本の定着と探求する学習 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に定める各教科等の目標や内容を「基礎・基本の学力」と捉え、指導と評価と支援が一体化した実践に努める。

平成30年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組み、読み解く力は身に付いてきている。低学年では、特に既習漢字を使って書く力と話す力を高めていく。中・高学年では、既習漢字を活用する力とローマ字つづりの定着、話し合いの目的を理解して話したり聞いたり、比較関連付けて読む力をさらに高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字を活用する学習、繰り返しの学習の定着が十分とはいえない。 ・グループやクラス全体での話し合い深め合う時間の設定が十分とはいえない。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲が高く、数学的な考え方や既習事項を生かして問題を解決する力は付いてきている。今後は、低学年で、「量や測定」の技能の定着を図り、式の意味を文章化し、正しく立式できる力、算数用語を適切に用いて考えを説明する力を高めていく。中・高学年では、数量や図形の技能の定着を確実に図り、筋道を立てて自分の考えを説明する力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の繰り返し学習が十分とはいえない。 ・考えを深める時間や発表し深め合う時間の設定が十分とはいえない。 ・個別支援が十分とはいえない。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲をもって学習に取り組んでいる。資料から情報を読み取り比較・関連付ける力は付いてきている。今後は、地図の記号についての理解を深めたり、資料や情報から情報を分析して総合的に考えたりする力をさらに高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活と関連付けた動機付けや問題提起が十分といえない。 ・資料を読み取ったり比較したりする時間と支援が十分とはいえない。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に知識、基礎・基本を理解する力は付いてきている。今後は関心・意欲が高まるような課題設定を行っていく。また、観察や実験の充実を図り知識や技能を高めていく。必要な情報を正確に読み取り、取り出す力、科学的な思考力・表現力を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を活用したり、問題意識をもって情報に向き合ったりする時間の設定が十分とはいえない。 ・植物や生き物に触れ合いじっくり観察する時間や実験の時間が十分とはいえない。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組み、体力全般的には全国や東京都の平均を上回っている。今後は、柔軟性や持久力、俊敏性をさらに高め、体力の向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の各部を使った様々な動かし方の経験が少ない。個人の運動量の確保が十分とはいえない。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	基本的な学習規律を確立し、落ち着いて学習に取り組むことができるようにする。学級70%以上の子どもたちがじっくりと考え、自分の言葉で発表し、話し合いを深めていくことができるようにする。
②授業改善	OJT の充実を図り、日常的に教員同士の授業を見合い、日々の実践の中で授業改善に努め、学期末のテストにおいて、基礎・基本の学習の定着率90%以上を目指し、子どもたちが分かる授業を実践する。
③教員の指導力	個別支援の必要な子どもたちにも特に配慮し、一人一人への課題とそれに応じた支援を行い、成長を見取るようにする。また、全教員が主体的、探求的に学習に取り組む授業展開ができるようにする。
④家庭との連携	継続的な家庭学習を促し、個の実態に対応しながら100%の子どもが宿題に取り組むことができるようにする。
⑤体力向上	マイスクールスポーツの一輪車を始め、コーディネーショントレーニングを授業に取り入れて継続的に行い、体力の向上につながるようにする。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	・学校全体で、あいさつの仕方、返事の仕方、言葉遣い、学習規律の内容を共通理解し継続的に指導を行う。
取組Ⅱ	・朝学習（15分）を週に2回、年間を通して実施する。計画的継続的に東京ベーシック・ドリルを活用したり、レディネステストを実施したり、習熟度を踏まえた指導を行う。また、振り返りを丁寧に行うことで、より一層学力の定着を図る。
取組Ⅲ	・話し方・聞き方の指導を系統的に継続し、定着を図る。

②授業改善	
取組Ⅰ	・定期的に OJT 研修会を開催する。日常的に、教員同士で授業を公開し合い、互いに参観し、よさや課題を率直に話し合うことで、授業改善のポイントを自覚し指導技術の向上を図れるようにする。
取組Ⅱ	・校内研究を通して、子どもたちが主体的・対話的で深い学びを実現できるような指導法について研究する。

取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・理数教育の充実を目指し、課題設定を丁寧に行い、予想・考察の時間を重視した実験や観察を通して、子どもたちの興味・関心がより高まるような授業を展開していく。
-----	---

③教員の指導力

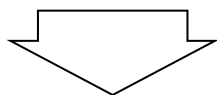
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT 研修会などで情報交換し合うことで、日頃から子どもたちへの発問の仕方、支援の仕方について共通理解を図る。全教員が主体的、探求的な授業展開ができるように取り組む。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領についての理解を深め、指導計画の作成の仕方、単元に応じた学習展開について学び合う。 ・各種研修会に参加したことを校内に広め、授業改善に生かす。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援の必要な子どもたちにも特に配慮し、一人一人への課題とそれに応じた支援を行い、成長を見取るようにする。

④家庭との連携

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の内容について、復習を中心に予習も取り入れるよう家庭に協力を求める。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会・個人面談・学校公開を中心に、学校の教育活動について保護者の理解を求め、協力を依頼するとともに、学校と家庭が一体となり、子どもたちの成長を支援しようとする意識を醸成する。
取組Ⅲ	

⑤体力向上

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・連続性のある運動量を確保した運動や、準備運動では弾みや反動を使った動的なストレッチ等を継続的に行っていく。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・マイスクールスポーツの一輪車活動を継続する。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・体育指導補助員との連携を図り、指導を充実させる。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none">朝学習の時間を週2回設定し、主に東京ベーシックドリル等を使用し、継続的な学習を実施し、個別の支援も行うことで、基礎学力の向上や学習への意欲につながった。系統的に話し方・聞き方の指導を行い、話し合いや全体共有する場面を設定することで、学習への意欲や新しい気付きにつながった。	<ul style="list-style-type: none">6年間の成長を見通した、系統的な指導をより充実させること。朝学習を継続的に行い、東京ベーシック・ドリルの活用では算数科に加えて理科や社会科、国語科の活用をさらに充実させていくこと。対話的な学習を充実させるために、話し方・聞き方の系統的な指導と、場面設定の工夫を継続すること。
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none">毎月のOJT研修会や校内研究授業の協議会では、活発に意見交流することで、授業の見方や改善点について学ぶことができた。理数教育では、課題提示を丁寧に行うことで、児童が興味をもって学習に取り組む姿が多く見られた。	<ul style="list-style-type: none">OJT研修会のさらなる充実を図り、授業の見方について学び合うとともに、授業改善力を高めていくこと。課題意識を児童自ら見つけることができるような指導の工夫を継続すること。主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行うこと。
③ 教員の指導力	<ul style="list-style-type: none">毎月のOJT研修会や校内研究会・生活指導全体会で、発問の仕方や支援の方法等について学ぶことができた。OJT研修会では、各研究会に参加した教員からの報告を聞いたり、持ち寄った資料で情報を共有したりして、指導に生かすことができた。校内研究では、生活科、総合的な学習に時間の系統的な指導計画を学ぶことができた。	<ul style="list-style-type: none">OJTや日頃の意見交流を通して互いの指導について率直に語り合い学び合うことのできる場の設定を継続して設けていくこと。校外の研修会等の学びを校内で共有できる環境を整備していくこと。OJT等から得た学びを実践していくこと。
④ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none">学校便りや学年便りを始め、ホームページの更新を定期的、また行事ごとに行うことで学校の教育活動を発信することができた。家庭学習に対する協力の呼びかけを行い、家庭学習が定着しにくい児童へのフォローを行うことで児童の基礎学力の向上につながっている。	<ul style="list-style-type: none">教育活動の発信を今年度同様に継続させること。家庭学習について「中央スタンダード」について定着を図ること。家庭学習だけでなく、家庭との連絡を丁寧に行い、さらに信頼関係を構築していくこと。
⑤ 体力向上	<ul style="list-style-type: none">マイスクールスポーツの一輪車活動を計画的に継続することで、体力向上だけでなく、助け合いや協力する姿勢へつながった。6年間の体育科の指導計画を系統的に見直し作成することができた。	<ul style="list-style-type: none">マイスクールスポーツの一輪車活動はできる形で継続していくこと。6年間を系統立てた体育の授業実践を継続すること。持久力を高める運動を充実させること。